

〈研究主題〉 児童生徒の学びをつなぐ授業づくり
～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて（2年次／2年計画）～

本研究では、児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を丁寧に把握し、各学部で設定した「学びをつなぐポイント」を授業づくりに取り入れ、児童生徒が学んだことを次の学習や日常生活へと自らつなげていく力を育む、学びをつなぐ授業づくりに取り組んでいます。今回は、小学部の全校授業研究会の様子について紹介します。

小学部3年 生活単元学習

● ● ● 「ノリノリ」のりまきだいさくせん！！ ～目指せ！海苔巻き大将！～

授業について

地域の寿司屋で教えていただいた「接客の約束」を意識しながら、お客さんをおもてなしする。本時は、児童同士が約束を守って接客できているかをチェックし合い、実際に先生をもてなした。

本時の「学びをつなぐポイント」について

- ① 活動の見通しがもてるような工夫
めあてや本時の活動が分かりやすいように、イラスト付きの活動表を提示
- ② 意図的な関わりの場面の設定
約束を守って接客しているか、他の児童がチェック、評価する場面を設定
- ③ 授業の振り返りと次時への導入を関連させる工夫
目標を達成するともらえる「大将シール」とがんばり表を作成。導入時に、前時にもらったこと確認し、本時も頑張ってシールをもらいたいという気持ちを高められるようにする



授業研究会から

授業研究会では、授業者が設定した協議題に沿ってワークショップを行い、「次につながるキーワード」をまとめました。※以下各グループからの抜粋

【協議題】

友達や教師に言葉やサインで思いを適切に伝えながら、児童が進んで活動に取り組むための教材・手立て・環境設定はどうあればよいか

○学びをつなぐために有効だった手立て

- ・校外学習で教えていただいた「接客の約束」を思い出すための動画での振り返り
- ・「友達におもてなし」→「一緒に勉強している先生をおもてなし」→「他学部の先生をおもてなし」

○「次につながるキーワード」

- ・「自分で考えを出す場面の設定」
- ・「相手の気持ちを考えたおもてなし」
- ・「思考と技能の難易度アップ」
- ・「今後の単元計画
～子どもたちが気付く、思い付く仕掛けづくり～」



○授業全体について

- ・子どもたちの「好き」「得意」「やってみたい」という思いを出発点にして単元設定されており、教師の「こんなことに挑戦させたい」という願いが伝わってくる内容だった。
- ・地域の飲食店に出かけ、本物の寿司職人に会ったことで、子どもたちは憧れやまねをしてみたという気持ちになっただろう。そのような気持ちが学習につながっていた。
- ・手順カードや工作しやすいように作られた補助具など、子どもたちが安心して取り組むことができる教材や手立てが丁寧に検討され、準備されていた。
- ・教師をおもてなしする場面では、各自の活動になり、友達の様子を見る機会がなかった。本時の振り返りで、動画を提示するなどして他の友達の頑張りに気付く時間を取れるとよかった。
- ・子どもたちがこれまで積み重ねてきたことから、1段階上のできること、できそうなことに取り組めるよう、単元構成をしてほしい。

○「学びをつなぐ」について

- ・本時は3つの「接客の約束」を守り、自分なりの伝え方でおもてなしをするという目標だった。なぜ約束を守らなければならないのか。その質問をしたら子どもたちはどのように表現して答えるか。考える場面を設定することも大事である。また約束を守することは子どもたちにとって大事なこと。他の学習に学びをつなぐことになり、将来の姿につながる。
- ・小学部として提示している4つの「学びをつなぐポイント」を意識して授業がつくられていた。このポイントを踏まえた授業づくりにより、より充実して、質が高まったものになるだろう。
- ・生活単元学習に各教科で学んでいる内容がどのように生かされているか、生活単元学習で身に付いた力が各教科でどのように生かされているのか。子どもたちが学びの成果や自分の成長を実感したことをどのように捉えるのか。今後の研究の進め方も整理してほしい。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと児童の変容）

○相手の気持ちに気付くことができるような振り返り

→PTAで、保護者の方々におもてなしを行った。このときも

「3つのやくそく」を守るように確認をした。自分の家族をおもてなしできることを喜び、張り切っておもてなしをしていた。振り返りでは子どもたちが自分が感じたことを発表ができるよう、表現する時間を十分にとった。

「うれしいって言われた」「ありがとうって言ってもらった」

「3つの約束を守ったら、おいしいって言われた」などの感想が挙げられた。喜んでもらえたことで達成感を得ることができ、「今度は本物の海苔巻きを作りたい」と、次の活動への意欲も高まっている。



○子どもたち同士で気付き、活動を進めていくための工夫

→本物の海苔巻き作りのために、ごはん炊き修行を行った。

1回目は手順表を全員で確認しながら正しいごはんの炊き方を経験した。2回目は、教師の支援や言葉掛けを減らし、さらに手順表のポイントとなる部分を隠して、作り方をみんなで思い出しながら活動できるようにした。3回目は教師は支援、言葉掛けをせず、子どもたち同士で進めるようにした。友達が手順表を読み上げるのを聞いて米を計量したり、釜を一緒に運んだり、自然に協力し合う場面が見られた。

